

## モザンビーク共和国月報 (2014年5月)

### 主な出来事

#### 【内政】

●政府・レナモ間対話にて、レナモ側は継続して国防・公安機関における平等な編成 (palidade) を主張。また、26日の対話にて、政府側は、ドゥラカマ・レナモ党首のマプトまでの旅費支給を提案するものの、レナモ側は受け入れず。

●有権者登録が5月10日に終了。登録率は87%強を記録。

●ゲブーザ大統領はオープン・プレジデンスーの一環で、イニャンバネ州、ガザ州、マプト市にて遊説を実施。

#### 【外交】

●バロイ外務協力大臣は、ポルトガル及びカーボ・ヴェルデの2カ国を訪問。

#### 【経済】

●6日、閣議においてモクバ郡の経済特区 (ZEE) 指定が採択された。

●10日、ロヴァム沖 Area 1 掘削中の Anadarco 社は、掘削泥水の油性物質 3 万リットルを海中に流出させる事故を起こした。

●28日、テテ州ムタララ郡シャフンディアラにて Vale 社炭鉱からベイラ港へ石炭を輸送していた列車が脱線・転覆した。

●Vale はモアティーゼ炭鉱地域から移転させられた 396 世帯家族に対する補償支払いを開始、一方、オペレーションコスト増に伴い第1四半期は44百万米ドルの損失を計上。

#### 【内政】

##### 政府・レナモ間対話

・5日、マプトにて行われた政府・レナモ間対話においては、大きな進捗は見られず。レナモ側は引き続き、非武装化の必須条件として国防・公安機関における平等な再編 (palidade) を主張。これに対し、マクイアーネ・レナモ代表は、レナモ側が要求していることは新たなものではなく、包括和平協定実施において遵守されなかった問題である旨指摘。

・19日の対話において、レナモ側は引き続き国防・公安機関における平等な編成を主張。また、レナモは、レナモ武装勢力の退去と引き替えに、国防軍の退去を要求。

・26日の対話において、パシェコ政府代表は、ゲブーザ大統領とドゥラカマ・レナモ党首との対話実現のためのマプトまでの旅費を政府側が支援する用意がある旨表明。マクイアーネ・レナモ代表は、ドゥラカマ党首の殺害を目的とした行為として不快感を示した。

##### 選挙関連

・選挙管理技術事務局 (STAE) は、2月15日～5月10日までに行われた選挙有権者登録の結果、10,637,000人が登録し、87.17%に達した旨報告。また、ドゥラカマ・レナモ党首は

8日午後、ゴロンゴザ郡の密林の中で有権者登録を済ませた。

- ・有権者登録期間は、当初4月29日までを予定していたものの、5月10日まで延期され、この延期による追加経費は7,000万メティカル（約230万米ドル相当）。
- ・15日、ドミンゴス平和・民主主義党（PDD）党首は、大統領選挙立候補を発表した。
- ・総選挙立候補手続きは、5月20日に開始され、期限は7月21日まで。

#### レナモ武装勢力の襲撃

- ・3日午前及び午後2回に亘り、ソファアラ州ムシュングエ/サヴェエ間の道路上でレナモ武装勢力は走行中の車両を襲撃。市民5人が負傷。
- ・15日、ザンベジア州モクバ郡モルタネにてレナモ武装勢力が国防軍兵士を攻撃。国防軍側に犠牲者2名、負傷者2名。
- ・29日12時30分頃、ゴロンゴザにてレナモ武装勢力は、国防・治安部隊護衛車列を襲撃。犠牲者はなし。

#### ゲブーザ大統領のオープン・プレジデンシー

（イニャンバネ州、ガザ州、マプト州）

- ・19日より、ゲブーザ大統領はイニャンバネ州のザヴァラ郡、マボテ郡マシंगा郡を訪問した。マシंगा郡では、総合司法管理所（検察局、裁判所、犯罪調査局、司法支援研究所等）の竣工式に立ち会った。レヴィ司法大臣も同席。また、州都イニャンバネ市での遊説では、ニュシ・フレリモ大統領候補も出席した。
- ・26日より28日までガザ州を訪問。マシンジール水力発電所の視察、州都シャイシャイ市、ビレーネ郡を訪問。リンポポ川下流域農業地帯も視察した。
- ・30日よりマプト市各地域での遊説を開始。

#### ニュシ候補の動き

- ・15日より、マプト市内の4地域にて、同党員との会合を開催。
- ・21日、ナンプラ州のムルプラ市（ゲブーザ大統領の出生地）を訪問。住民との会合を行う。
- ・22日にはイニャンバネ市を訪問し、演説を行った。

#### 【外交】

##### モザンビーク要人の外遊

- ・バロイ外務協力大臣は、22日より、ポルトガルとカーボ・ヴェルデの2カ国を訪問。リスボンでは、ムラルギィ CPLP 事務局長（モザンビーク人）及びマシェッテ葡外相と会談を行った。また、25日より28日までカーボ・ヴェルデを訪問し、経済関係及び経済協力関係

の強化につき確認を行った。

・24日、ゲブーザ大統領は、ズマ南ア大統領就任式のため、バンゼ外務副大臣と共にプレトリアを訪問。

#### 信任状捧呈式

・29日、英、東ティモール、日本、パキスタン、ニジェール、タイ、コンゴ、エチオピア、セネガル、ギリシャ・スワジランドの11カ国の大使が、ゲブーザ大統領へ信任状を奉呈した。

#### 【経済】

##### エネルギー

・8日、Anadarko社はOrca区の採掘を終え、天然ガス埋蔵量は50tcf～70tcfに達すると改めて発表。

・モザンビーク炭化水素公社（ENH）は、来年より、ザンベジ川河口ソファアラ州シンデ、マロメウ郡ミカウーネ、ルアボ地域における石油開発調査が再開される予定である旨表明。本地域は、1970年代に米Gulf Oil社が1箇所の掘削調査を行ったが良好な結果は出ていない。

・9日、VALE社はモアティーゼ炭鉱地域から移転させられた396世帯家族に対し、補償支払いを開始し、既に106世帯家族が必要書類を提出し、保障を受けた。補償額は1世帯家族当たり119,250メティカル（約40万円）。

・10日、ロヴマ沖Tubarão Tigre-1地点（モシンボア・ダ・プライアから46キロメートル）にて石油・ガス開発調査を行っていたAnadarko社は、掘削作業による泥水中の油性物質30,000リットルを海中に流出させる事故を起こした（事態は収束し、掘削作業再開）。

・Vale石炭部長は、モザンビーク事業における今年度第1四半期の損額は44百万米ドルに達したと発表。原因はオペレーションコスト高によるもの。

・20日、ENH Logistics社と伊Bonatti社は、炭化水素工業へのサービス提供分野における連携関係構築に合意。

・21日、ENI社は、Agulha-2地点の掘削調査の結果、Area 4地域のガス埋蔵量は85Tcfと確認した。

・マプト、マトーラ、マラクエーネを結ぶ天然ガス供給主要パイプライン設備工事が完了し、大型消費者への供給が30日より開始された。

・28日、テテ州ムタララ郡シャフンディラにてVale社炭鉱からベイラ港へ石炭を輸送していた列車が脱線した（貨車42台中32台が転覆）。現時点における石炭の損失量及び損学は推測不可能。

## インフラ

- ・道路管理庁（ANE）によれば，年間道路維持管理費は約 30 億メティカルに達する。今年度のナンブラ州道路維持管理に必要な資金は推定 3.5 億メティカル強。
- ・モザンビークとタンザニア政府は，カーボ・デルガード州パルマ郡とタンザニア川を結ぶもう 1 本のロヴマ川架橋建設事業を共同で進めている。
- ・5 日，ENHILS 社は，来年 1 月より新ペンバ港建設事業が開始される予定である旨表明した。事業費は推定 150 百万米ドルで、投資企業はナイジェリア企業の Orlean Invest 社。
- ・モザンビーク航空会社は，ボーイング 737 機計 3 機を 2015，2016，2017 年に 追加購入する予定。同 3 機の価格は 225 百万米ドル。

## 雇用

- ・1 日，全国主要都市・各地にて労働者はメーデーの行進を行い，生活費高騰への不満を訴えた
- ・労働省によれば，労働法に基づき外国人労働者の国内雇用件数が削減傾向にある。

## 援助

- ・JICA は，ショクエ灌漑農業支援として 14 百万メティカル超相当のトラックとプラットフォーム，掘削機，地ならし機，トラクター，貯水タンクなどをショクエ水資源管理公社に供与した。

## その他

- ・6 日，閣議においてザンベジア州モクバ郡の経済特区（ZEE）指定が採択された。また，モクバ繊維工場敷地 19 ヘクタールを工業団地に開発することも決定。同経済特区の面積は 10,727 平方キロメートル，建設中のマクゼ港に近いジェラ郡ムニャマデ町まで含む。特徴は森林・農業潜在力が高いこと，工業団地には農作物加工工場の設備が見込まれ，雇用創出は推定 2,000 ポスト。
- ・国家統計院の報告によると，4 月の物価指数は 0.12% 増加した。
- ・近くベイラ港に肥料集荷専用ターミナルが建設される予定。新ターミナル建設費は推定 35 百万米ドル，完成後の集荷量は 1 日当たり 6,000~8,000 トンへ増加する見込み。肥料輸送の最終目的地は主にジンバブエ，ザンビア。
- ・ナンブラ州モナポ，メコンタ 2 郡にて栽培されるゴマの需要が高まっており，同農作物の輸出先は欧州，日本。前農年におけるゴマの国内流通価格は 1 キログラム当たり 52 メティカル，生産者数はモナポ郡だけでも約 2,400 人。